野鳥の鳥インフルエンザウイルス感染源としてのリスク評価
（実施機関：北海道大学・鳥取大学）

渡り鳥に存在するH5, H7亜型ウイルスのリスク評価（北海道大学）

海外および国内の最初の飛来地における鳥インフルエンザのサーベイランスの強化

H5亜型

H7亜型

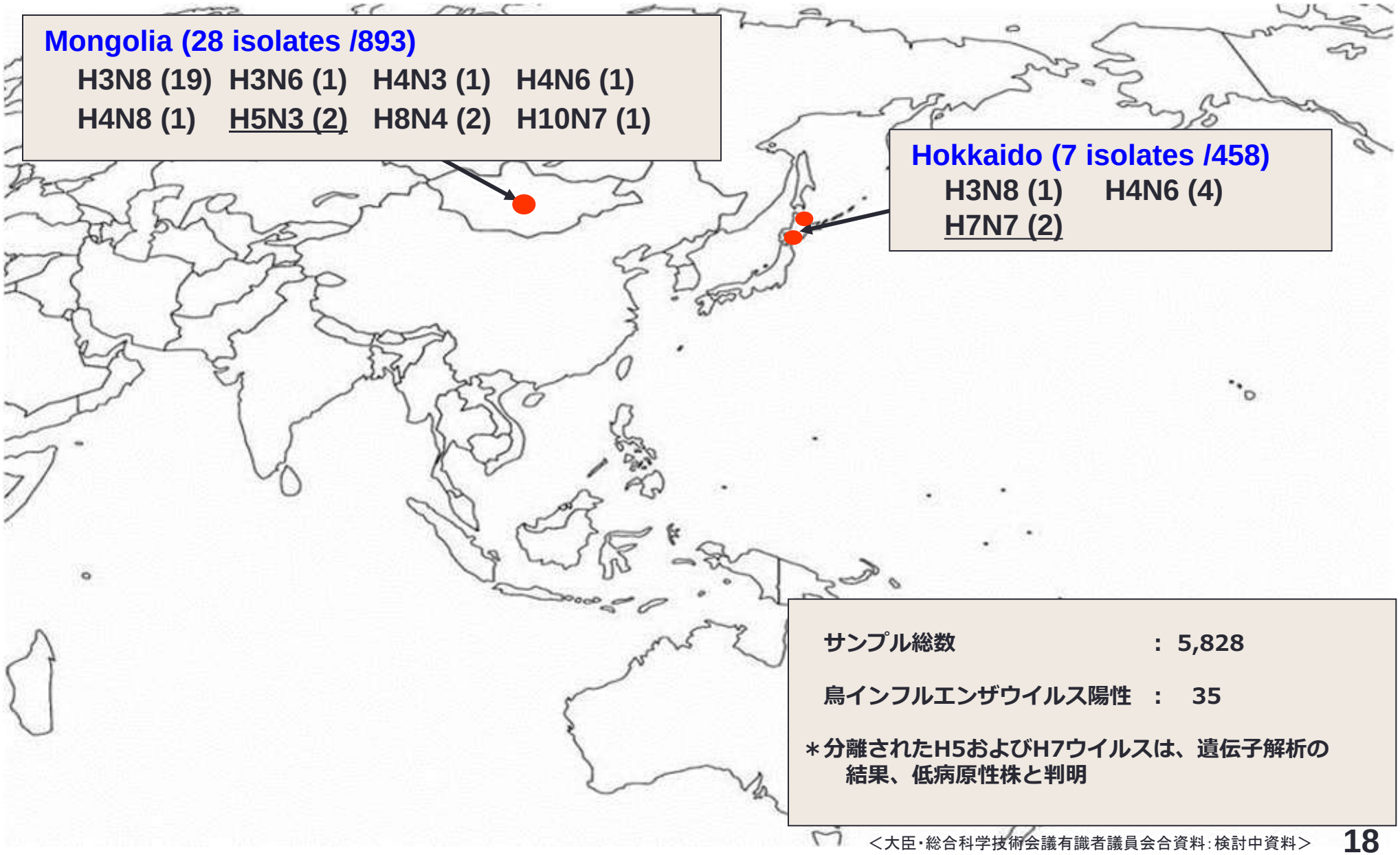
分離ウイルスの接種試験
遺伝子情報解析

・分離ウイルスの各動物に対する
　-致死率
　-ウイルス排泄量
　-潜伏期間　　etc.

・分離ウイルスに対する現行診断
　技術の有効性検討

ウイルスの家禽へのリスク評価

モンゴル・北海道における鳥インフルエンザ（2011）



Mongolia (28 isolates /893)

H3N8 (19)　H3N6 (1)　H4N3 (1)　H4N6 (1)
H4N8 (1)　H5N3 (2)　H8N4 (2)　H10N7 (1)

Hokkaido (7 isolates /458)

H3N8 (1)　H4N6 (4)
H7N7 (2)

サンプル総数　：5,828

鳥インフルエンザウイルス陽性　：　35

＊分離されたH5およびH7ウイルスは、遺伝子解析の結果、低病原性株と判明

H5N1 2010-2011冬季に日本で分離されたH5N1ウイルスの接種試験成績

済み

ニワトリ

- 感染する
- 全身増殖
- **致死的**

アヒル

- 感染する
- 全身増殖
- 臨床症状なし

マウス（実験動物）

- 感染する
- 全身増殖
- **致死的**

カラス（野生）

- 感染する
- 一部の臓器で増殖
- 臨床症状なし

計画中

スズメ（野生）

?

クマネズミ（野生）

?

＊当初の計画通り進行中